



MX49/MX61リモートエディター 取扱説明書

目次

ご注意.....	1
MX49/MX61リモートエディターとは.....	2
MX49/MX61リモートエディターのデータ構成.....	2
MX49/MX61リモートエディターの起動から終了までの流れ.....	3
ウィンドウ各部の名称と機能.....	7
困ったときは(トラブルシューティング).....	14

ご注意

- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このファイルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacまたはMacintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Steinberg およびCubase は、Steinberg Media Technologies社の登録商標です。
- その他、このファイルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

このマニュアルは、お客様がWindows/Macの基本的な操作方法について十分おわかりいただいていることを前提に書かれていません。Windows/Macの操作方法については、Windows/Macに付属のマニュアルをご参照ください。
MX49/MX61リモートエディターを使用するために必要なコンピューター環境、機器の接続、MX49/MX61リモートエディターのインストールについては、別ファイルのインストールガイドやリリースノート、または本体の取扱説明書をご参照ください。

MX49/MX61リモートエディターとは

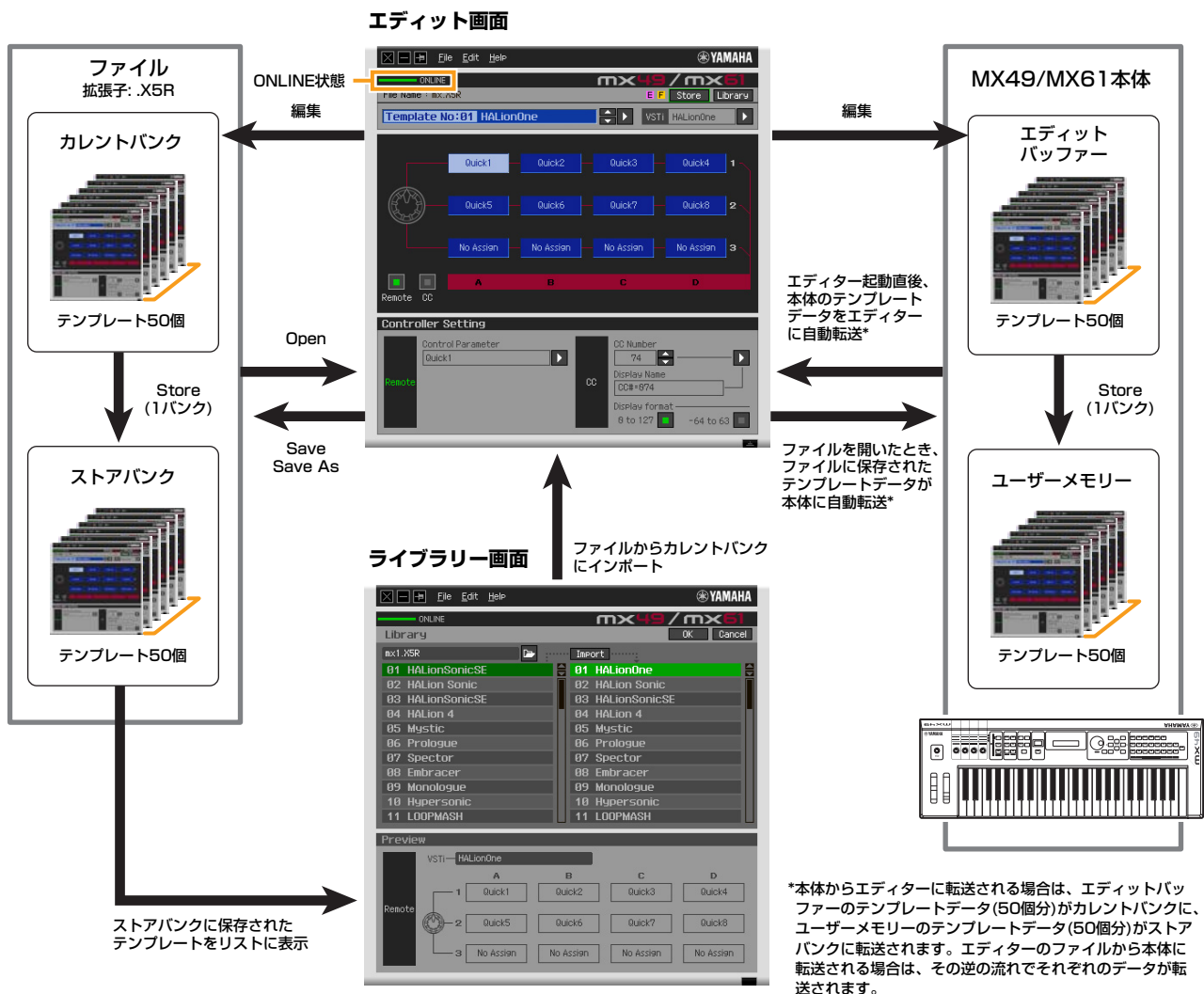
ヤマハミュージックシンセサイザー MX49/MX61 本体用のテンプレート(コントロールテンプレート)をコンピュータ上で編集/作成するためのアプリケーションです。テンプレートを使うと本体上のノブに、現在使用しているVSTインストゥルメントの操作に最適な機能を割り当てられます。

本体上では、50個のテンプレートを扱っていますがMX49/MX61リモートエディターでは50個のテンプレートを1バンクとみなし、いくつものバンクを新規に作成/編集/削除できます。また、エディター上で作ったテンプレートは50個分(1バンク分)をまとめて本体に送ったり、編集中のバンク(カレントバンク)と保存(ストア)したバンク(ストアバンク)の2バンク分をまとめて1つのファイル(拡張子: .X5R)としてコンピュータに保存します。

MX49/MX61リモートエディターのデータ構成

MX49/MX61リモートエディターでは、現在選択中のファイル(2つのバンクを保存したデータ)のカレントバンクに含まれているテンプレートを編集します。MX49/MX61本体とエディターが正常にUSB接続されている(ONLINE状態)場合、エディター上でテンプレートを編集すると、本体のエディットバッファ上のテンプレートも自動的に更新され、カレントバンクと本体のエディットバッファのデータは常に同期がとられます。カレントバンクの編集作業が完了したら、[Store](ストア)操作により、編集したカレントバンクのデータを現在のファイルのストアバンクに保存(ストア)します。この操作により、本体側もエディットバッファのデータがユーザーメモリーに保存(ストア)されます。その後、[File]メニューの[Save]または[Save As...]メニューを使って、カレントバンクのデータとストアバンクのデータをまとめて1つのファイルとしてコンピュータ上に保存します。ファイルとして保存しておくことで、編集中のテンプレート設定を再度呼び出せたり、ストアしたテンプレートを別のファイルに取り込めます。

MX49/MX61リモートエディターで作られるデータおよびその流れについては、下図を参考にしてください。



MX49/MX61リモートエディターの起動から終了までの流れ

MX49/MX61リモートエディターは、MX49/MX61 Remote Toolsに含まれるソフトウェアです。MX49/MX61 Remote Toolsのインストールガイドに従ってMX49/MX61リモートエディターやYamaha Steinberg USBドライバーなどの関連ソフトウェアをインストールしたあと、下記手順に従ってMX49/MX61リモートエディターを操作します。操作を始める前に、本体の「MX49/MX61リファレンスマニュアル」の「コンピューターと接続して使う」を参考に、コンピューターと本体がUSBケーブルで正しく接続されていることを確認してください。実際には、さまざまなエディット方法があるので、下記手順は1つの例として参考にしてください。

NOTE 本体は[UTILITY] → 「02:MIDI」を選択 → [ENTER] → 「MIDI IN/OUT」 = 「USB」 → [STORE]操作をしておいてください。

NOTE MX49/MX61リモートエディターのインストール後、スタインバーグ社製DAWソフトウェアを一度も起動していない場合は、DAWソフトウェアをいったん起動させ、すぐに終了させてください。この操作は、MX49/MX61リモートエディターがDAWソフトウェア内をスキャンしてVSTインストールメントの情報を取得するために必要です。(DAWソフトウェアへのスキャンは、Cubase などスタインバーグ社製DAWソフトウェアに限ります。)

1. 以下の操作を行ないMX49/MX61リモートエディターを起動します。

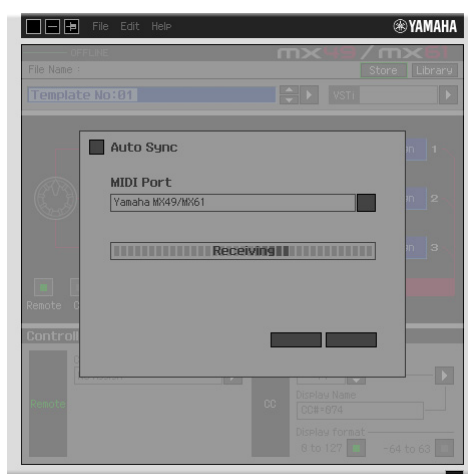
Windowsの場合

[スタート] → [すべてのプログラム] → [Yamaha MX49_MX61 Remote Editor] → [MX49_MX61 Remote Editor]を選びます。

Macの場合

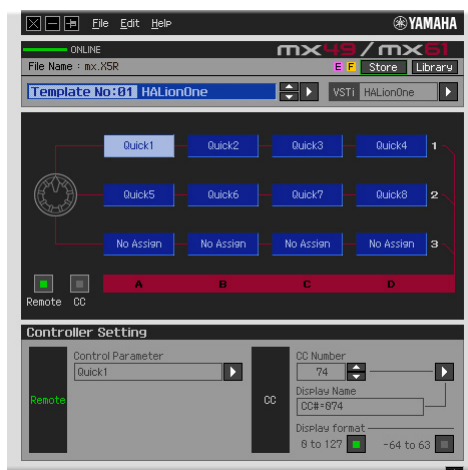
[アプリケーション](Applications) → [Yamaha] → [MX49_MX61] → [MX49_MX61 Remote Editor]を選びます。

下記のように、Auto Sync画面が表示され、本体にあるテンプレート50個×2バンク分の設定が、MX49/MX61リモートエディターのカレントバンクとストアバンク(2ページ)に自動転送されます。



NOTE 「MIDI port is not found.」などのメッセージが表示される場合は、Yamaha Steinberg USBドライバーがコンピューターに正しくインストールされていないか、本体とコンピューターがUSBケーブルで正しく接続されていない可能性があります。その場合はもう一度確認をして、手順1からやり直してください。

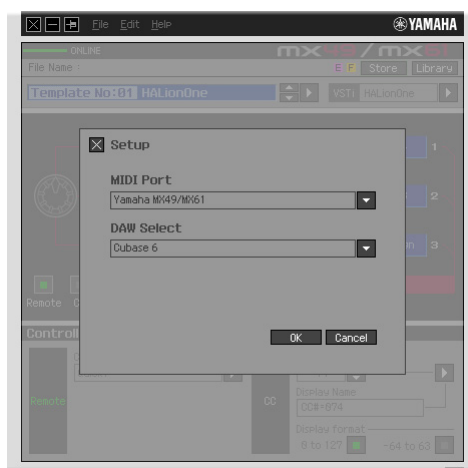
自動転送が完了すると、下記エディット画面が表示されます。



NOTE 本体とコンピューターがUSBケーブルで接続してあるにもかかわらず、Auto Sync 画面で本体からの自動転送がうまく行なわれない場合は、本体のユーティリティー MIDI画面で、下記の設定になっているか確認してください。

- 「MIDI IN/OUT」 = 「USB」
- 「DeviceNo」 = 「1」 / 「all」

2. [File]メニューから[Setup]を選び、Setup画面を表示させます。



3. 「MIDI Port」 = 「Yamaha MX49/MX61」 に設定されていることを確認し、「DAW Select」 から使用するDAW ソフトウェアを選択します。

コンピューターと本体が適切にUSB接続されていれば、上記の画面を開いた時点ですでに「MIDI Port」 = 「Yamaha MX49/MX61」 に設定されています。またDAW Select欄を設定することにより、DAWソフトウェアに登録されているVSTインストルメントの情報をMX49/MX61リモートエディターに取り込みます。

4. [OK]をクリックします。

VSTインストールメントのスキャンが自動的に始まります。

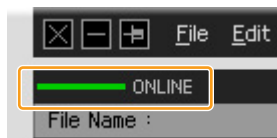


VSTインストールメントのスキャンが完了すると、もとのエディット画面に戻ります。これでMX49/MX61リモートエディターの起動および設定が完了です。

NOTE 手順4で[OK]をクリックしてもVSTインストールメントのスキャンが行なわれなかった場合は、[File]メニューから[VSTi Database] → [Full Scan]を選ぶことで、スキャンを実行してください。

5. MX49/MX61リモートエディターのエディット画面上で、ONLINE (オンライン)状態になっていることを確認します。

ONLINEになっている場合、本体とリモートエディター間で双方向通信が行なわれます。OFFLINEになっている場合は、もう一度手順2からやり直してください。



6. Cubase など、DAWソフトウェアを起動します。

7. 本体の[DAW REMOTE]ボタンを押して、リモートモードに切り替えます。

8. VSTインストールメントを操作しながら、MX49/MX61リモートエディターの画面上で、テンプレートを編集してみましょう。


編集時は「ウィンドウ各部の名称と機能」(7ページ)や「メニュー」(10ページ)を参考にしてください。エディターがONLINEの状態であれば、エディターを編集すると本体の設定もリアルタイムに反映されます。

9. 編集して気に入ったテンプレートのデータは、エディット画面の右上にある[Store]をクリックし、現在のファイルのストアバンクに保存(ストア)します。

実行を確認する画面が表示されるので、[YES]をクリックし、ストアを実行します。テンプレートのデータがストアバンクにストアされると同時に、本体のユーザーメモリーにもストアされます。

注記

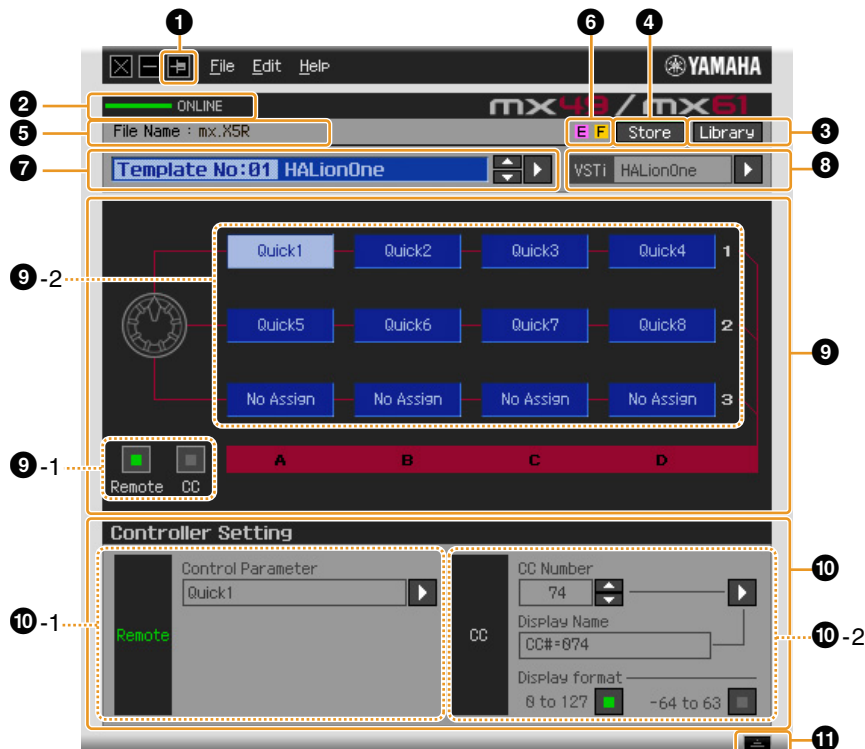
ストアせずに本体の電源を切ると、編集中のテンプレートは本体のメモリーから消えてしまいます。大切なデータは、本体の電源を切る前にストア操作を実行してください。

10. 編集が終わったら、[File]メニュー → [Save]または[Save As...]を選んで、編集したテンプレート(バンク)をファイルとして保存(セーブ)します。
編集中のカレントバンクのデータと、ストアバンクのデータがまとめて1つのファイルとして保存されます。
注記
ファイルとしてセーブせずにリモートエディターを終了すると、カレントバンクのデータだけでなく、手順9でストアしたデータもコンピューター上からは消えてしまいます。
11. 画面左上にある  マークをクリックして、MX49/MX61リモートエディターを終了します。
セーブができていない場合は、セーブを促すメッセージが表示されますので、セーブを実行してエディターを終了します。

ウィンドウ各部の名称と機能


MX49/MX61リモートエディターには、現在選択されているテンプレートの編集作業を行なうEdit (エディット)画面と、テンプレートのインポートやコピーを行なうLibrary (ライブラリー)画面の2つがあります。

Edit (エディット)画面



① 前面ボタン

MX49/MX61リモートエディターを常に前面に表示するためのボタンです。

 で常に前面に表示する状態となります。

② ONLINE (オンライン)

本体とMX49/MX61リモートエディターがオンラインの状態(正常にUSB接続されている状態)かどうかを表示します。オンラインの状態の場合、「ONLINE」と表示され、MX49/MX61リモートエディター上での編集作業がリアルタイムで本体に反映されます。USB接続が正常にされていない、本体と通信できない状態の場合は、「OFFLINE」と表示されます。

③ [Library] (ライブラリー)ボタン

クリックすると、Library画面(10ページ)が開きます。

④ [Store] (ストア)ボタン

クリックすると、ストアの確認画面が表示されます。この画面上でYESをクリックするとストアが実行され、NOをクリックすると、何もせずもとの画面に戻ります。Storeでは、現在編集中の50個すべてのテンプレートを現在編集中のファイルのストアバンクに一括保存します。同時に本体のユーザーメモリーにも一括保存されます。

⑤ File Name (ファイルネーム)表示

現在編集中のテンプレートが保存されているファイルの名前を表示します。

6 E/F マーク

テンプレートやバンクの編集状態を示すマークです。E マークはテンプレートがストアバンクに保存されていないことを示します。④ [Store]ボタンを押して保存を実行すると、E マークが消え、編集中のカレントバンクのテンプレートデータがストアバンクに保存されます。F マークは、現在編集中のファイルが保存されていないことを示します。[File]メニューから[Save]/[Save As]で保存を実行すると、F マークが消え、カレントバンクにあるテンプレートデータとストアバンクにあるテンプレートデータが1つのファイルとしてまとめて保存されます。

7 テンプレート選択欄

編集中のテンプレート名を表示します。[▲]/[▼]ボタンをクリックすると、カレントバンク内の50種類のテンプレートを順次選択できます。[▶]ボタンをクリックすると、テンプレートの一覧が表示されるので、その中から編集したいテンプレートを選択できます。

8 VSTインストゥルメント選択/入力ボックス

ノブでコントロールするVSTインストゥルメントの名前が表示されます。右側の[▶]ボタンをクリックすると、選択できるVSTインストゥルメントの一覧が表示され、必要に応じて変更できます。また、ボックスに直接VSTインストゥルメントの名前を文字入力することもできます。その場合、正確に入力する必要があります。

NOTE 目的のVSTインストゥルメントが一覧に表示されない場合は、「困ったときは」(14ページ)をご覧ください。

9 エディット部

この欄にあるノブのイラストは、本体パネルのノブを表します。各ノブに割り当てる機能を、好みに応じて編集します。

9-1 [Remote]/[CC]切替ボタン

本体のノブを操作することでMIDI出力されるメッセージの種類を、Remote (Cubase専用のリモートコントロール)にするか、CC (コントロールチェンジ)にするかを選択します。

9-2 ノブへの機能割り当てボックス群

本体上にあるノブを表します。ノブの右側にある12個のボックスには、現在ノブに割り当てられている機能が表示されます([Remote]/[CC]切替ボタンの状態によって表示される機能は異なります)。編集したいボックスをクリックしたあと、⑩ Controller Setting (コントローラーセッティング)部で機能を選ぶことにより、該当するノブに割り当てる機能を変更します。オンラインの状態では、ここでの変更は本体の設定にリアルタイムに反映されません。

10 Controller Setting (コントローラーセッティング)部

⑨ エディット部で選択した欄に該当するノブの機能を実際に設定する部分です。エディット部の[Remote]/[CC]切り替えボタンがRemoteの場合とCCの場合とで、設定欄が分かれています。

10-1 Remote (リモート)部

エディット部で選択した機能割り当てボックスに該当するノブに、機能を割り当てます。エディット部の[Remote]/[CC]切り替えボタンがRemoteの場合に、ここでの設定が有効になります。この部分の左にある「Remote」をクリックした場合も、エディット部の[Remote]/[CC]切り替えボタンがRemoteに切り替わります。

• Control Parameter (コントロールパラメーター)

[▶]ボタンをクリックして表示されるメニューから、使いたい機能を選択します。

10-2 CC (コントロールチェンジ)部

エディット部で選択した機能割り当てボックスに該当するノブに、機能を割り当てます。エディット部の [Remote]/[CC]切り替えボタンがCCの場合に、ここでの設定が有効になります。この部分の左にある「CC」をクリックした場合も、エディット部の [Remote]/[CC]切り替えボタンがCCに切り替わります。

- **CC Number (コントロールチェンジナンバー)**

コントロールチェンジナンバーを設定します。[▲]/[▼]ボタンをクリックすることでナンバーを選びます。数値を直接入力することもできます。

- **Display Name (ディスプレイネーム)**

エディット部の [Remote]/[CC]切り替えボタンがCCの場合に、本体の画面に表示されるノブ機能の名称を、ここで設定します。[▶]ボタンをクリックすることで表示されるメニューの中から1つを選びます。文字を直接入力することもできます。

- **Display Format (ディスプレイフォーマット)**

ノブ操作によって本体に表示される設定値のフォーマットを、0~127か-64~+63かのどちらかに設定します。

11 詳細ボタン

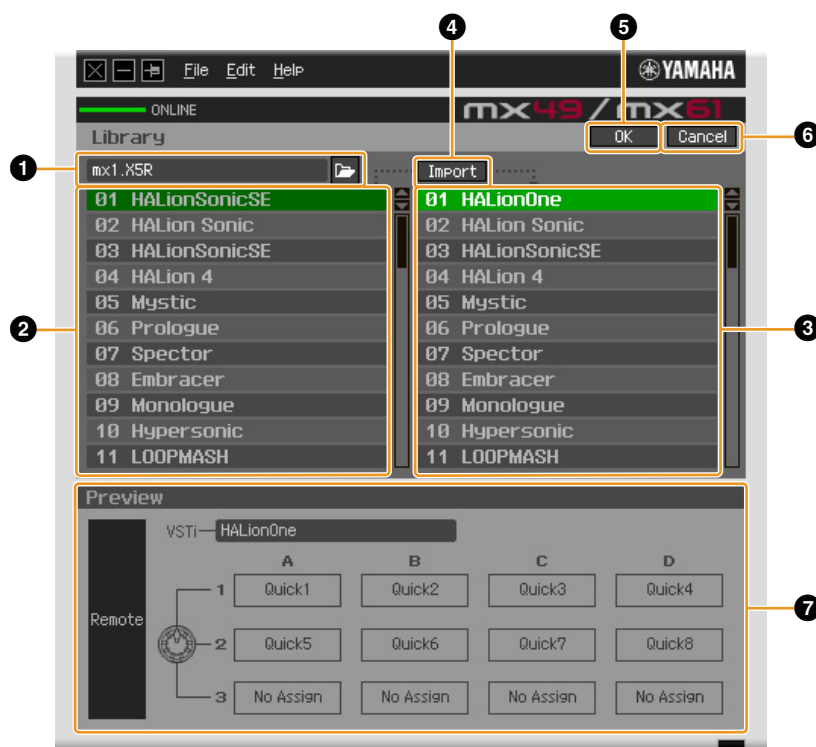
このボタンをクリックするとController Setting部を非表示にします。もう一度押すとController Setting部を表示します。



Controller Setting非表示のとき

Library (ライブラリー)画面

Edit画面で[Library]ボタンをクリックすると、以下のLibrary画面が表示されます。



① ファイル部

ファイルを開くアイコンをクリックするとダイアログが表示され、以前に保存したファイルを選択できます。ファイルを選択すると ②ストアバンクのテンプレートリストに、選択したファイルのストアバンクに保存されているテンプレートの一覧が表示されます。

② ストアバンクのテンプレートリスト

①で指定したファイルのストアバンクにあるテンプレートの一覧を表示します。このリストからインポート元のテンプレートを選び、③カレントバンクのテンプレートリストでインポート先のテンプレートを選んで ④ [Import] ボタンをクリックすると、指定したファイルに保存されているテンプレートが、現在編集中のファイルのカレントバンクにインポートされます。選択されたテンプレートの現在の設定は、⑦ Preview (プレビュー)に表示されません。

NOTE インポート操作は、ファイル保存(セーブ)時点でストアされていたテンプレートに対してだけ実行可能で、ストアされていなかったテンプレートに対してはできません。インポートしたいテンプレートについては、ファイル保存前に必ずストアしておきましょう。

③ カレントバンクのテンプレートリスト

現在編集中のファイルのカレントバンクにあるテンプレートの一覧を表示します。ここでは、②ストアバンクのテンプレートリストで選択したテンプレートのインポート先を選択します。選択されたテンプレートの現在の設定は、⑦ Preview (プレビュー)に表示されます。カレントバンクのテンプレートリスト上では、テンプレートのコピーや貼り付けを行なうこともできます。

④ [Import]ボタン

①で指定したファイルのストアバンクにあるテンプレートのうち、編集したいテンプレートを現在編集中のファイルのカレントバンクにインポートします。

NOTE インポートは、テンプレートひとつずつに対して行ないます。

5 [OK]ボタン

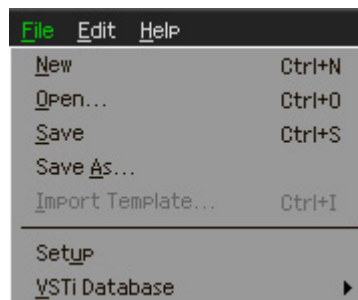
③ カレントバンクのテンプレートリストを確定して、Edit画面に戻ります。オンラインの状態であれば、本体にも同時に転送します。

6 [Cancel]ボタン

③ カレントバンクのテンプレートリストに対する編集を確定せずに、Edit画面に戻ります。

7 Preview (プレビュー)

テンプレートリストで現在選択されているテンプレートの設定が表示されます。

[File]メニュー**New (新規作成)**

新しいファイルを作成します。エディット画面でのみ選択できます。

Open... (ファイルを開く)

保存(セーブ)されたファイルを開きます。エディット画面でのみ選択できます。

Save (保存)

カレントバンクの50個とストアバンクの50個のテンプレートすべてを、1つのファイルとしてコンピューターに保存します。エディット画面でのみ選択できます。

Save As... (名前をつけて保存)

カレントバンクの50個とストアバンクの50個のテンプレートすべてを、ファイルに新しい名前をつけて保存します。エディット画面でのみ選択できます。

Import Template (テンプレートの読み込み)

保存(セーブ)したファイル(拡張子: .X5R)のストアバンクのデータを読み込んで、Library (ライブラリー)画面にある、ストアバンクのテンプレートリストに表示します。Library画面のファイル部からファイルを選択したときと同じです。Library画面でのみ選択できます。

Setup (設定)

エディターの基本的な設定として、接続している本体のMIDIポートや、使用するDAWソフトウェアを選択します。このメニューを選ぶと、「Setup」ダイアログボックスが表示されます。各メニューを設定後[OK] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。



- **MIDI Port (MIDIポート)**
本体とコンピューターが適切に接続されていれば、「Yamaha MX49/MX61」が自動的に設定されます。
- **DAW Select (DAWソフトウェアの選択)**
現在コンピューターにインストールされているDAWソフトウェアのうち、どれを使うかを選択します。

VSTi Database (VSTiデータベース)

DAW Selectで選択したスタインバーグ社製DAWソフトウェアに登録されているVSTインストゥルメントをスキャンして、必要な情報を取得します。このメニューは、さらに下記の2つのメニューに分かれます。

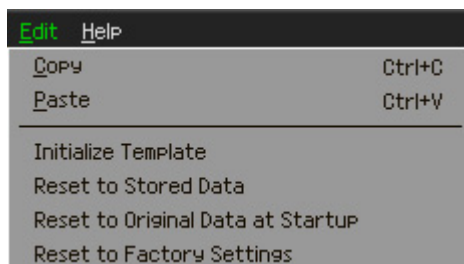


[Full Scan]は、DAWソフトウェアで使用しているVSTインストゥルメント全体をスキャンします。初めてVSTインストゥルメントをスキャンするときは[Full Scan]を選択します。

[Update]は、前回のスキャン以降に変更された箇所に加え、過去のスキャンでVSTインストゥルメントではないと認識されたもの、スキャンに失敗したものを再スキャンします。VSTインストゥルメントを新たにインストールしたときは、[Update]を選びます。

MX49/MX61リモートエディターを初めて起動したときと、「Setup」ダイアログボックスのDAW SelectでDAWソフトウェアを新たに選択したときには、[Full Scan]が自動的に実行されます。

[Edit]メニュー



Copy (コピー)

選択している情報をコピーします。

Paste (貼り付け)

コピーした情報を、選択位置に貼り付けます。

Initialize Template (テンプレートの初期化)

エディット中のテンプレートのすべての設定を初期値に戻します。

Reset to Stored Data (最後にストアしたデータに戻す)

エディット中のすべてのテンプレートと本体上のすべてのテンプレートを最後にストアした状態に戻します。

この機能を選択すると、確認のダイアログボックスが表示されます。確認のダイアログボックス上で[OK]ボタンをクリックすると実行され、[Cancel]ボタンをクリックすると何もせず、もとの画面に戻ります。

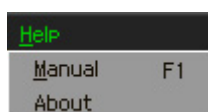
Reset to Original Data at Startup (リモートエディター起動前のデータに戻す)

エディター上と本体上のすべてのテンプレートを、リモートエディターが起動する前の状態に戻します。この機能を選択すると、確認のダイアログボックスが表示されます。確認のダイアログボックス上で[OK]ボタンをクリックすると実行され、[Cancel]ボタンをクリックすると何もせず、もとの画面に戻ります。

Reset to Factory Settings (工場出荷時のデータに戻す)

エディター上と本体上のすべてのテンプレートを、工場出荷時の状態に戻します。この機能を選択すると、確認のダイアログボックスが表示されます。確認のダイアログボックス上で[OK]ボタンをクリックすると実行され、[Cancel]ボタンをクリックすると何もせず、もとの画面に戻ります。

[Help]メニュー



Manual (マニュアル)

本書を開きます。Adobe® Reader® やAdobe Acrobat® などのPDFファイル対応アプリケーションが起動します。

About (バージョン情報)

MX49/MX61リモートエディターのバージョン情報が表示されます。

困ったときは(トラブルシューティング)

エディット画面のVSTインストゥルメント選択/入力ボックスの右側にある[▶]ボタンをクリックしても、VSTインストゥルメントリストを表示させても、DAWに登録してあるはずのVSTインストゥルメントが見つからない。

- MX49/MX61リモートエディターがDAW内のVSTインストゥルメントを認識していない可能性があります。[File]メニュー → [VSTi Database] → [Full Scan]を実行してください。(12ページ)

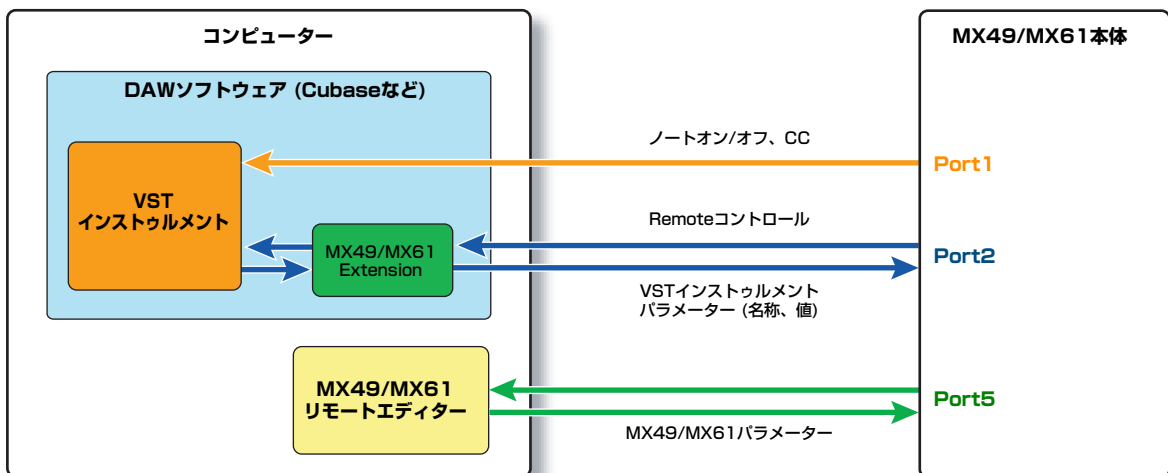
MX49/MX61リモートエディター上で設定したパラメーターが、本体上に表示されない。

- 本体上での表示内容は、Cubaseから送られてくる情報に基づいています。Cubaseを起動し、対象のVSTインストゥルメントを選択してください。

CubaseなどのDAWソフトウェア上でVSTインストゥルメントを切り替えても、本体のコントロールテンプレートが適切なものに切り替わらない。

- VSTインストゥルメントの情報は、MX49/MX61 Extensionを通じてMX49/MX61リモートエディターに送られます(下図参照)。最新のMX49/MX61 Extensionがインストールされていることを確認してください。
- DAWソフトウェア上で選ばれているVSTインストゥルメントがVSTインストゥルメント選択/入力ボックス(8ページ)の表示と一致していることを確認してください。

[参考] MX49/MX61リモートエディター、MX49/MX61本体、DAWソフトウェア間でのデータ送受信



本体のノブを動かすと、意図しないRemoteパラメーターが動いてしまう。

- Cubase上のMIDIポートの設定で、本体のポート2とポート5のAll MIDI Inputをオフにしてください。

エディット画面でControl Parameterの右にある[▶]ボタンをクリックしても、適切なコントロールパラメーター群が表示されない。

- VSTインストゥルメントが正しく設定されていない可能性があります。VSTインストゥルメント選択/入力ボックス(8ページ)に文字を直接入力した場合は、スペルが間違っていないか、スペースの有無が正しいかを確認してください。または、VSTインストゥルメント選択/入力ボックス右側にある[▶]ボタンをクリックすることで表示されるメニューの中から、使いたいVSTインストゥルメントを選んでください。

Cubase以外のDAWソフトウェアで、設定したパラメーターが動かない。

- Cubase以外ではRemoteによるコントロールはできません。[Remote]/[CC]切替ボタン(8ページ)をCCにしてください。
- 本体の[UTILITY] → 「04:Remote」を選択 → [ENTER] → 「DAW Select」で、「Cubase」以外を選択してください。

DAWソフトウェア上でトラックを変更しても、コントロール対象となるVSTインストゥルメントが切り替わらない。前回選択したトラックのVSTインストゥルメントがコントロールされる。

- Cubaseをお使いの場合、リモートデバイスの設定で、「Yamaha MX49/MX61」を選択し、MIDI入出力ポートとして本体のポート2を選択してください。
- 本体がリモートモードになっていることを確認してください。(5ページ)